

## 人間と思想

## 心の哲学

《担当者名》森元 良太 (リハ)

## 【概要】

心理学は心を扱う分野であるが、そもそも心とは何だろうか。心をめぐる哲学の議論を通して、心の本質の理解に迫る。そのため、心の哲学の代表的な議論を正確に理解し、「心とは何か?」という問いに対してどう考えていけばよいのかを学ぶ。また、心について哲学的に考えることを学ぶことにより、哲学的な思考法も習得する。小レポートや討論を活用し、一方的な知の伝達だけではなく、双方向的な学習を図る。

## 【学修目標】

心の哲学の代表的な議論を正確に理解することにより、心理学の根幹をなす「心」について哲学の観点から理解を深める。  
心の哲学の諸問題とその解決策について検討することにより、哲学的な議論の方法を習得する。議論の結論をただ鵜呑みにするのではなく、自分で議論を再構成し、その議論に対して批判的に検討できるようになる。  
発表や討論などの参加型の学習を通じてディスカッション能力を養う。

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	心の哲学が抱える諸問題	心の哲学はデカルトにはじまる。デカルトの心身二元論に触れ、心という概念が難物であることを確認し、哲学的な考察を必要とすることを知る。また、心の哲学が抱えるいくつかの問題を理解する。	森元 良太
2	唯物論への転回	デカルトの二元論が現代に残した災いを理解する。心身問題、他人の心についての懐疑、外部世界への懐疑、自由意思、動物の心、同一性の問題などに触れる。	森元 良太
3	唯物論への転回	二元論の困難を克服するためのいくつかの案に触れるとともに、それらの問題点を理解し、唯物論へ展開していく歴史的変遷を学ぶ。	森元 良太
4	行動主義	唯物論の考えに触れる。方法論的行動主義と論理的行動主義を学び、それらの問題点を理解する。	森元 良太
5	心脳同一説	唯物論の考えに触れる。タイプとトークンの区別を知り、タイプ同一説とトークン同一説という二種類の心脳同一説を学ぶ。また、それらの問題点にも触れる。	森元 良太
6	機能主義	唯物論の考えに触れる。認知科学の哲学的基盤である機能主義の考えを学び、同一説の問題点への対処や機能主義の特徴を知る。	森元 良太
7	機能主義	機能主義の考えをより深く理解するために、チューリング・マシンやチャーチのテーゼなどの鍵となる概念を学ぶ。それとあわせて、機能主義と認知科学の関係も理解する。	森元 良太
8	機能主義のまとめ	これまでの議論を踏まえ唯物論の是非を検討する。	森元 良太
9	機能主義への批判	機能主義への批判とされる中国語の部屋論証を学び、意味論と統語論の違いを理解するとともに、機能主義の問題点を知る。	森元 良太
10	機能主義への批判	知識論法と呼ばれる機能主義批判を学び、一人称的な知識と三人称的な知識の違いを理解し、機能主義の限界を知る。	森元 良太
11	機能主義への批判	機能主義批判として有名な想定可能性論法を学び、クオリアの厄介さを理解するとともに、機能主義の問題点を知る。	森元 良太
12	機能主義からの再反論	中国語の部屋論証と知識論法に対する機能主義の再反論に触れ、機能主義の可能性を探る。	森元 良太

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
13	機能主義からの再反論	想定可能性論法に対する機能主義の機能主義の再反論に触れ、機能主義の可能性を探るとともに、唯物論の限界と可能性を検討する。	森元 良太
14	機能主義以外の可能性	心についての機能主義以外の考えに触れる。とくに、解釈主義と消去主義と呼ばれる考えを学ぶ。	森元 良太
15	総括と討論	これまでの議論をまとめるとともに、討論を通じて疑問点を解消する。	森元 良太

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

期末レポート100%で評価する。レポートは授業中に明示するルーブリック評価表にもとづいて評価する。なお、ルーブリック評価については授業中に解説する。

【教科書】

安部博史編著（2025）『新・脳から始めるこころの理解』 福村出版

【参考書】

ジョン・R・サール（2006）『マインド：心の哲学』 朝日出版社

【備考】

1. 講義資料の配信、学修課題の提示
  - ・講義資料はGoogle Classroomを利用して配布する。
  - ・学習課題はGoogle Classroomを利用して提示する。
2. 講義に関する学生間、および教員とのディスカッションの実践
  - ・Google Classroomを利用して、学生相互の意見交換、および学生と教員間のディスカッションをおこなう。
3. 授業時間中にその場で学生の理解度を把握する技術の活用
  - ・Google Formを利用し、毎回小テストを実施し、学生の理解度を把握する。

【学修の準備】

授業では知識を提供することが多くなるが、哲学は自分自身で考えることが重要な学問である。哲学者の議論を自分で再構成することは、哲学的議論の方法を習得するにも効果的である。そのため、授業後にしっかり復習をすること（80分）。また、次回までに授業で紹介した議論に批判を加え、さらに自分で議論を用意してくること（80分）。授業中に小レポートなどで意見を求め、ディスカッションすることがある。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

DP2：豊かな人間性・自立性・創造性・協調性等を身につけている。

DP1：心身の健康を保持し学修を継続できる基本的態度と知識・技能を身につけている。

上記、心理科学部ディプロマ・ポリシーに適合している。